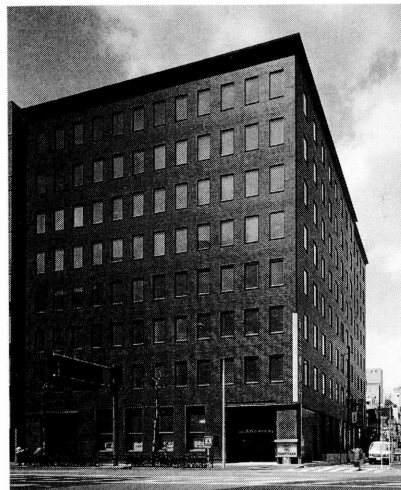


近三ビルヂング

所在地 中央区日本橋
用途 事務所ビル
竣工年度 1931年
所有者 近三商事(株)
設計者 村野藤吾
施工者 (株)竹中工務店
維持管理者 近三商事(株)



〔審査評〕 近三ビルヂングは、昭和6年（1931年）に合名会社森五商店東京支店として建築された、鉄筋コンクリート造地下1階、地上7階、延床面積4000 m²の建物で、設計は村野藤吾。彼が独立後はじめて手掛けた処女作として、「森五ビル」の名で知られている。

黒褐色の大形タイルに覆われた重厚な外壁と、そこに整然と配置された浅い縁取りのある縦長窓との鮮やかな対比が、1階の道路に面した高く明るい窓の扱いとともに、当時としては最新の、都会風に洗練された美しい壁面構成を示している。外壁上部へバラベットを庇状に突き出し、建物のヴォリュームを引き締めながら、その線をライトアップして浮かして見せるなど、建物の輪郭への設計者のなみなみならぬ関心もうかがえる。

こうした均整のとれた渋い外観とは対照的に、無駄のない構成の骨組によってもたらされた天井の高い内部空間は、すでに村野藤吾独特の明るい、華やかなデザインの手法で豊かに満たされている。1階エントランスホールの、トラバーチン貼りの壁面とガラスモザイクのヴォールト天井との組み合わせは、見事というほかはない。事務所建築の機能を充足しつつ、そこに芸術的な感性を融合させた設計者、それを実現した施工者、それを評価した発注者、その三者の信頼関係が生んだ昭和初期の名建築の一つといえよう。

第二次世界大戦の戦火には、僅かに被爆しただけで健在であった。以後、自社ビルから貸事務所ビルに用途が変えられたが、昭和31年（1956年）には建物背後と既存部分の最上階に大規模な増築が行われ、地上8階、延床面積7840 m²の規模になった。平成4年（1992年）の築後60年の大改修に際しては、全ての窓をエルミンサッシュに更新するとともに、外壁タイルの全面張替えと更新、屋上防水と内装仕上げの全面改修が行われている。

この近三ビルヂングの特色は、更新の折に終始一貫、原設計の意図が尊重され、外装タイル、窓、軒先廻り、それに室内デザインの主要部分はその当初の形が踏襲されていることである。周辺の環境やテナントの要求等が刻々と変化し、思うように過去の技術や材料が確保できない状況の中で、建物の芸術的な価値を損なうことなく、その原型を維持・保全してきた関係者の努力とその技術の蓄積は高く評価されよう。設計事務所と施工者との不断の協力関係もさることながら、所有者である近三商事の森社長はじめ関係者が寄せる村野藤吾個人への敬愛とそのデザインに対しての限りのない愛情が、かくも健全な姿で名建築を蘇らせ、守り続けた原動力であったかと思われる。